

稲・大豆作情報 (NO. 8)

1. 水稲作況情報田の生育概況(8月18日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/15 17.5株/m ²	本 年 平 年 平年比	102.8	334	13.5	34.3	8月3半旬は好天に恵まれ、気温・日照時間とも平年を上回った。しかし中晩生品種の生育は平年並みに回復しておらず、草丈は短く、葉齢の展開も遅れている。
			出穂始め。出穂見込 8/20 (平年より5日遅い)			37.9 (91)	
さがびより 小城市芦刈町	6/22 16.1株/m ²	本 年 平 年 平年比	77.8	357	13.6	35.2	夢しずく： 出穂始め～出穂揃い期
			89.4 (87)	447 (80)	14.7 (-1.1)	35.5 (98)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	7/1 18.5株/m ²	本 年 平 年 平年比	69.4	680	13.3	40.2	
			72.7 (95)	571 (119)	14.6 (-1.3)	39.3 (102)	

注1) 各品種 前作：麦

注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる。

2. 水稲管理

猛暑が続く予報であるため、生育ステージに応じ適切な水管理を心がける。

「夢しずく」：出穂始め～出穂揃い期を迎えている。出穂後 10 日頃までは過度の水分ストレスが厳禁であるため、灌水の期間をやや長めとした間断灌水を心がける。

「さがびより・ヒヨクモチ」：稲の要水量が最も必要とされる‘穂孕み期’となっており、灌水期間を長めにした間断灌水を心がける。

※台風接近時は必ず湛水・深水とし、通過後は新しい水と交換し、間断かん水に戻す。

○今週の管理

【夢しずく】

- ・現在、出穂始め～出穂揃い期となっている圃場が多い。
- ・穂ばらみ期～出穂期頃は要水量が最も多くなるため、灌水の期間をやや長めとした間断灌水を心がける。

【ヒノヒカリ、さがびより】

- ・‘穂孕み期’を迎えている。
- ・穂肥は下記の診断結果を基に施用するが、「ヒノヒカリ」は施用時期を過ぎている。
- ・穂肥施用時（幼穂形成始期）は湛水し、その後の間断灌水では、地固めと根に空気を送るため落水期間を確実にとる。地が緩い場合は、落水期間をやや長めにとる。

<ヒノヒカリ>

- ・穂肥施用時期は過ぎているが、未施用圃場では速やかに施用する。

【ヒノヒカリ穂肥診断基準】

幼穂形成始期の草丈	幼穂形成始期の葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
80cm以下	3.0以下	34以下	20~24日	1~2mm	3.0	18.8
	3.0~3.3	35~38	18~20日	3~5mm	3.0	18.8
	3.5~3.8	39~40	16~18日	5~15mm	2.0	12.5
	3.8以上	41以上	—	15~30mm	1.0以下	6.3以下
80cm以上	3.0~3.3	35~38	18~20日	3~5mm	2.0	12.5
	3.5~3.8	39~40	16~18日	5~15mm	1.5	9.4
	3.8以上	41以上	—	15~30mm	1.0以下	6.3以下

<さがびより>

- ・「さがびより」は、8/18現在、幼穂長約10mmであり、穂肥施用適期となっている。

【さがびより診断基準】

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
80cm以下	3.5以下	38以下	18~20日	5mm	2.5	15.6
	3.7	38~40	18日	10mm	2.0	12.5
	3.8	40~41	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	42以上	施用しない			
80cm以上	3.8以下	39以下	16~18日	10~15mm	1.5	9.4
	3.8以上	40以上	施用しない			

さがびよりの生育ステージと穂肥の施用時期のイメージ

「さがびより」の生育ステージ	←--- 穂肥時期の目安 ---→												出穂期
	出穂前日数	-25	-24	-23	-22	-21	-20	-19	-18	-17	-16	-15	
幼穂形成始期及び幼穂形成始期からの日数							4日後		6日後	1週間			
幼穂長			1mm		2mm		5mm	10mm		15mm	20mm		
標準的な草丈(cm)			72~75				草丈の指標は、1cm/2日減じて使用する						
備考							適期						
注1) 「」印は、幼穂形成始期を示す													

【ヒヨクモチ】

- ・最高分げつ期～幼穂形成始期頃となっている。
- ・間断灌水に移行し、幼穂形成期までに軽めの中干し（小さなヒビが入る程度）を行う。
- ・中干し終了後の入水は、一度に溜め込まず、軽く田面を走らせる程度とする。その後は間断灌水とする。（一気に水を溜めると下葉枯れが助長されるので、注意する）

○病害虫情報(発生および防除)

◆トビイロウンカ

- ・箱施用剤を使用した圃場でも発生がみられ始めており、発生状況に合わせて、第2回目防除適期(8/21~8/25)に防除が実施できるように準備を行う。
- ・必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認する。(各地域及び圃場ごとに発生量が異なるため)
- ・防除の際は、湛水するとともに、株元まで薬剤が十分かかるよう、ていねいに散布する。

※最新の飛来状況については、農業技術防除センターのホームページから確認してください。

農技防 HP 参照：病害虫情報：<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>

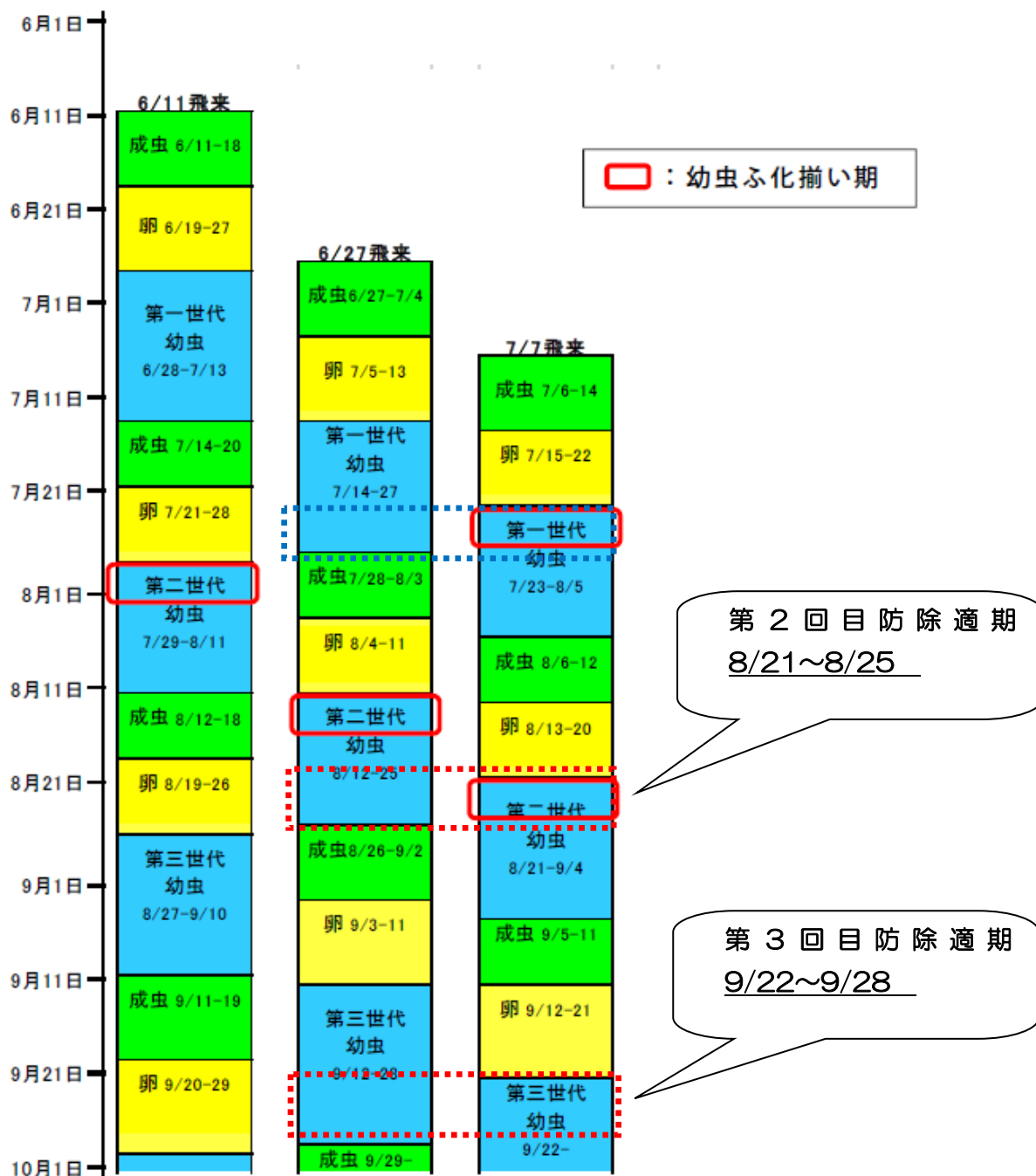


図 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第4版、2020年7月21日作成)

◆コブノメイガ

- ・断続的に飛来し、コブノメイガによる食害が多くみられている。
- ・幼虫ふ化揃い期（下発生予測図の赤枠）の防除効果が高いため、必ず圃場ごとの発生状況を確認し、適期防除を実施する。
- ・8月の発生量は、多い予測である（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第4号）。
農技防 HP 参照：発生予察予報：<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00373814/index.html>

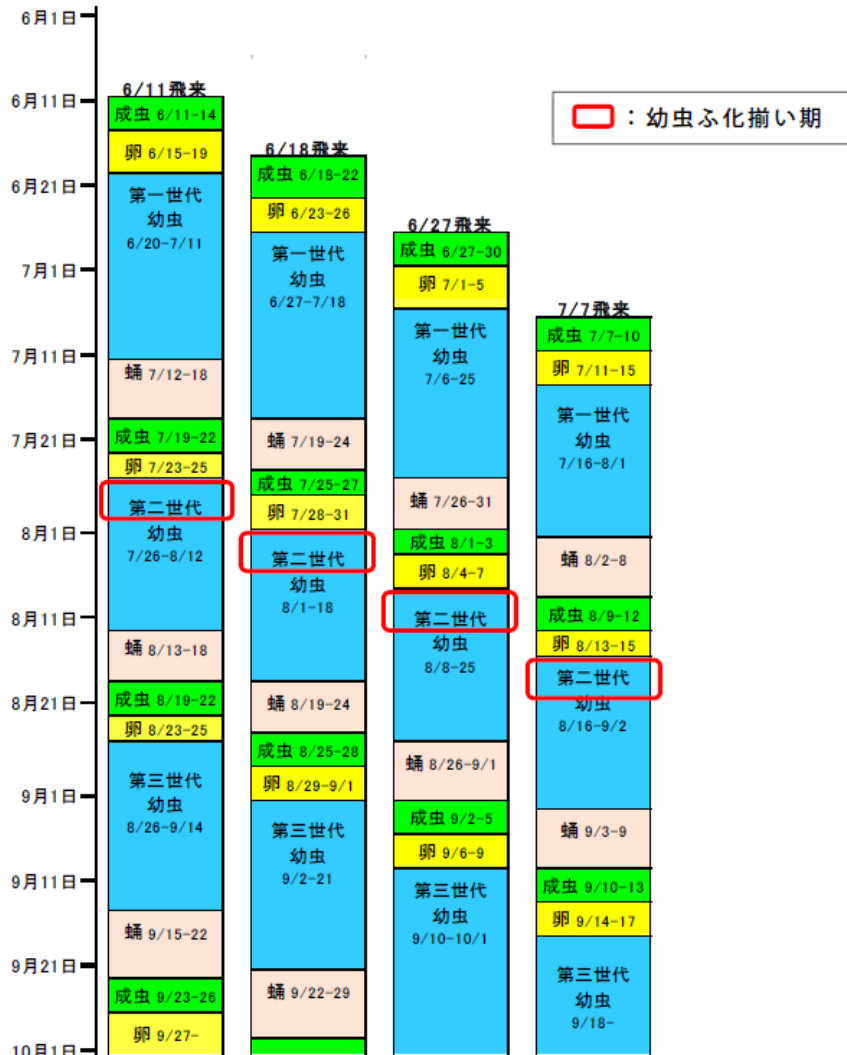


図 コブノメイガ各世代の発生予測（第4版、2020年7月21日作成）

◆斑点米カメムシ類

- ・畦畔除草は出穂 10 日前までに行う。
出穂後畦畔除草を行うと水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、出穂 10 日前までに草刈りを済ませ、時期を逸した場合には除草しない。
- ・8月の発生量は、やや多い予測である（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第4号）。
- ・山麓部や河川敷付近など、例年発生が多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。

草刈りの時期（目安）	斑点米カメムシ類の防除時期
平坦部さがびより・・・8/23頃まで	◎多発生：「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除
ヒヨクモチ・・・・・・8/30頃まで	◎少発生：「乳熟期（出穂の約15日後）」1回防除

◆いもち病

- 8月の穂いもち発生量は、やや多い予測である（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第4号）。
- 進展型病斑がみられる圃場では早急に薬剤防除を行う。
- 葉いもちの発生がみられる圃場は、穂ばらみ期の防除を実施する。さらに、上位3葉に病斑が確認される場合は、穂揃い期にも薬剤防除を行う。



▲いもち病（農業技術防除センターより）

◆紋枯病

- 一部の圃場で紋枯病がみられ始めている。
今後、莖数が増え、圃場内の風通しが悪くなり、気温が高く経過すると、一気に進展する恐れがある。
- 田回りを励行し、病斑が確認された場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂10～20日前が目安）に防除を行う。



▲紋枯病

3. 大豆管理

7月中旬に播種した圃場で、1度も培土がされていない圃場は速やかに作業を行う。
8月初旬に播種した圃場では、初生葉が展開している。台風やゲリラ豪雨に備えた排水整備をおこなう。

○排水対策

局地的なゲリラ豪雨に備えるため、排水溝の整備を行い、排水口への確実な誘導を図る。
リターンデッチャや畔塗り機で施工した額縁明渠についても確実につながっているか確認を行う。

○培土

雑草防除や発根・根粒形成促進のため、以下目安を参考に培土を実施する。

※今年は播種後、降雨量が多く、土膜が厚い。土中の空気が不足気味となっており、それにより
根の伸長が少なく、葉の展開もやや遅く、葉色も淡い。

※ただし、高温少雨が継続する予報であるため、日中の作業は土壤水分の乾燥を助長するため、
避け、朝方の培土が望ましい。

【実施時期の目安】

1回目：本葉2～3枚の頃、子葉が隠れる程度におこなう。

2回目：本葉4～5枚時に、初生葉（子葉の上の葉）まで隠れるようにおこなう。



1回目の培土時期の目安

○雑草防除

- ・イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル等で防除する。
- ・カヤツリグサ科が多い場合は、大豆バサグラン等で防除する。
- ・アサガオ類やホオズキは、繁殖力が強く、放置すると次年度以降の発生量が多くなるため、圃場内はもとよりまくら地や畦で発生している場合は、必ず抜き取り圃場外へ持ち出すか薬剤散布での防除を徹底する。

○病虫害防除(ハスモンヨトウ)

高温乾燥により多発することが懸念される。発生状況に注意し白変葉が見られた場合は防除を行う。

令和2年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業改良普及センター

